

桜花爛漫、本日の晴れやかな日に、平成 25 年度大阪市立大学入学式に出席された学部学生 1,517 名、大学院学生 760 名の 2,277 名の諸君、ご入学おめでとうございます。

本学は皆様のご入学を心より喜びをもってお迎えいたしたいと思えます。

そして、この日を長年にわたり、物心両面に亘り支え、心待ちにしてこられたご家族の皆さま、本当にご入学おめでとうございます。

ご多忙にもかかわらずご出席いただいた関係各位のご臨席を賜り、このように平成 25 年度の入学式を挙げていくことは、本学にとりまして誇らしく、大きな喜びであります。

さて、本日から皆様を迎える本学の歴史についてお話をしたいと思います。

大阪市立大学は今年で創立 133 年を迎える長い歴史と伝統を持ち、市立の大学としては我が国で最も歴史が古く、公立大学として規模の最も大きな総合大学です。また、大阪市内に位置する唯一の総合大学でもあります。また、QS world University Ranking (2013 年度)でのアジア top 100 において、本学は 62 位、我が国では 15 位の位置であります。

その淵源は大阪商業講習所の開所に遡ることができます。1880 年（明治 13 年）、明治維新からわずか 10 年余りの時代に、当時の「大阪財界のリーダー」であった五代友厚が、当時の大阪人の熱い世論、「我が国の商業の中心として栄えている大阪に商法学校をという世論」を支持し、商業講習所創立の中心的役割を果たしました。

その後、大阪市の誕生によって市に移管され、1928 年（昭和 3 年）に大阪商科大学に昇格いたしました。

大学に昇格したこの当時、市長・関一は開設にあたって「市立商科大学の前途に望む」と題する一文を草し、商大設立の意義と理念を述べました。そこには 3 つの意義が記されています。

- ・第 1 に、大学を大都市に必要な精神文化の中心的機関と位置づけたこと、
- ・第 2 に、そのためには市民の力を基礎として市民生活に密着した大学、すなわち、国立大学の「コピー」ではない大学であること、
- ・第 3 に、「大都市・大阪を背景とした学問の創造」を大学の任務としたことです。

関一によって示された大阪商科大学の理念は、現在でも輝きを失うことなく、現在の本学の理念として継承され、教育・研究・社会貢献のあり方を方向づけております。

戦後、学制改革により、1949年（昭和24年）に新制大阪市立大学となり、昭和30年には、大阪市立医科大学を併合して、現在の8学部、大学院10研究科をもつに至っています。

本学は、2006年に法人化をし、昨年の2012年4月から新たな6年間の第二期中期目標・中期計画が始まっています。その中で、大学の普遍的使命である真理の探究を前提として、重点戦略を3つ挙げております。

- ・都市科学分野の研究促進とシンクタンク機能の充実
- ・高度専門職をめざす社会人の育成
- ・国際力の強化

このことにより、「本学が都市大阪の知的インフラとして、総合大学である多様性を強みとして、高度の専門性とグローバルで幅広い視野を有し、都市大阪の成長や地域の発展に貢献する有為な人材を育成」という目標を掲げてきています。

一方、現在、大阪府・市では、今後の大阪の成長に貢献する公立大学のあり方について、外部有識者による新大学構想会議を設置し、検討が進められてき、このたび、「新大学構想〈提言〉」が示されました。

新たな公立大学ビジョン策定の背景として、世界的な都市間競争に打ち勝つ『強い大阪』を実現する成長戦略においての、

- ・都市の知的インフラとして大学の活用は不可欠であること、
- ・二つの大学をあわせれば学生数2万人近い公立総合大学となり、これまで培ってきたポテンシャルの活用が求められていることが示されております。

この提言では、理系の強みをより打ち出した「地球未来理工学部(仮称)」や、「人間科学域(仮称)」の新設など先端研究をより高度化するとともに、時代のニーズに応じた新たな教育組織の提案などの更なる発展を期待する提言となっております。

今後は、現在進行中の本学の改革をこれらの提言を踏まえて、より充実し、飛躍、発展できる大学を目指していきたいと考えております。

皆様は大阪市立大学の学生として4年間、あるいは6年間でまっとうされますが、その間、これからの新たな我が大学のチャレンジをまさに目撃されることになろうと思います。また、次世代への大きな飛躍のチャンスをとともに得ていただきたいと思います。

次に、本学の現況とトピックスを述べたいと思います。

昨年10月にはノーベル医学・生理学賞が山中伸弥先生の受賞と決まり、大喝采を浴びました。本学の医学研究科の卒業生として大いに称賛されるべきと、喜んでおりましたところ、さらに、また、喜ばしいニュースが新年になり飛び込んでまいりました。

理学研究科、複合先端研究機構の神谷信夫教授が、本年の「朝日賞」を受賞されました。

先生の研究は、光合成のなぞを解く鍵となる「マンガンクラスター」という物質の分子構造を解明したもので、2011年のサイエンス誌の世界の10大トピックスで、国家プロジェクトの「はやぶさプロジェクト」と並ぶ我が国からの2つの大トピックスの中の1つとしてとりあげられ、世界から祝福を受けたばかりであります。本学としても大変に名誉に思う次第です。

学舎関係では、理系学舎の整備は着々と進んでおりまして、旧教養地区の共通研究棟、理工地区の理系共通実験棟はすでに完成し、全体の工事は2015年春にはすべて完了できる予定です。

また、この3月には産学連携拠点としての人工光合成研究センターが新設され、いよいよ本格的に研究活動が新たな拠点で始動いたします。

7月には「うめきた」地区のナレッジキャピタルに「健康科学」をテーマとした市立大学ゾーンを開設し、全学プロジェクトの産学連携活動を全開いたします。

さらに、2014年の春には、あべのハルカスの21階に医学部の検診事業を含む先端予防医療センター、さらには医学部内に同名の研究所を設置する予定です。21世紀の医療の最先端の先制医療を中心に、大阪の健康・医療に大いに活躍を期待される所です。

最後に、本日の、皆様のこのよき日の機会に、言葉を送らせていただこうと思いません。

**高原慶一郎様**については、ご存じの方も多いと思いますが、ユニ・チャームの創業者で現取締役ファウンダーであり、82歳。実は、本学の新制大学の第1期生であり、本学の学友会の会長の責も担っていただきましたし、本館地区にある高原記念館は氏の寄付によるものです。

学生時代に、後年、文筆家で著名になる本学の同級生の開高健氏との交友録なども日経新聞の「私の履歴書」で面白く述べられたりもしておられます。

その高原大先輩は多くの著書を執筆しておられますが、その中に PHP 社の「人生を生き抜くカン・コツ・急所」という著書があります。全編、84 の人生にとっての含蓄のある言葉がちりばめられています。

この本の「あとがき」のなかで、あえて新たに改定版を執筆したことについて、「自分の中に宿る三つの「魔」が突き動かしたからだというのです。

「目標魔」「実行魔」「貫徹魔」の三つの「魔」だそうです。通常は“魔が差す”という「魔」は弱い心に住んでいます。が、「この「目標魔」「実行魔」「貫徹魔」という三つの「魔」は強烈な執念と確たる信念を持った心にしか住みつきません。」と述べられています。

・進化論のダーウィンは、生物で最後まで生き残るのは一番強い種でもなく、一番賢い種でもなく、変化し続ける種だと看破しという話や、

・チャップリンは晩年に「生涯の作品でどの作品がいちばん良かったか？」と問われて「次の作品」と答えたという話を紹介されておられます。ダーウィンやチャップリンにこの三つの「魔」が住んでいると直感されたということでしょうね。

執筆時 74 歳の大先輩の高原氏にしてさえこのような心意気を示されています。ましてや、諸君は本日が人生の新たなフェーズに入る最初の日です。出発の晴れの日です。大いに大望をもち、進化し続けて欲しいと思います。その心の中に三つの「魔」——「目標魔」「実行魔」「貫徹魔」——を抱かえ続けていただければと思います。

社会、世界は急激に、あるいは過激に変化し、変容してきています。また、恐ろしいほどの、そして予測すらできない災害も襲ってきます。このような世界においてグローバルな生き方はもう必須なことです。そのベースとなる幅広い教養、深い専門分野の能力を習得し、さらに高めていくためにもこの三つの「魔」は求められる基本的な姿勢であるのではないのでしょうか？

ご入学のこの日に際し、有意義で可能性の広がる学生生活、研究生活を、本学で、本日よりスタートされますことを祈念し、わたくしどもの心からの歓迎の意を表して、皆様への祝辞とさせていただきます。

本日は、本当におめでとうございます。